

学習・発達論	2年・前期	2単位 30時間	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011221

1. 授業のねらい・概要

学生が養護教諭第一種免許状を取得するために必要な科目である。

教員として子どもと関わる際に必要となる教育心理学・発達心理学の基礎知識を中心に学ぶことで、教える対象、教える方法について心理学の知見からより深く理解して、活用できるようになることをねらいとする。

2. 学修の到達目標

1. 2-8回で取り上げる発育・発達に関わるキーワードについて理解し、自分の言葉で説明ができる。(D-2)
2. 9-12回で取り上げる学習に関わるキーワードについて理解し、自分の言葉で説明ができる。(D-2)
2. 13-15回で取り上げる心理学に関わるキーワードについて理解し、自分の言葉で説明ができる。(D-2)
3. 教育現場の事項を授業で取り上げるトピックの側面から説明できる。(D-2)

3. 授業の進め方

講義及び演習。スライド資料と教科書を使用して授業を進める。

質疑応答の時間を設ける。授業は基本的には対面の講義形式で行う。

【アクティブ・ラーニングの実施の有無】

授業の最後にリアクションペーパーを用いてリフレクションを行う。

【ICT活用の有無】

PC、タブレット、スマホ等を用いた調べ学習を行う。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	本講義の意義と目的	講義	事前学習：シラバスを読んでおく。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井 淑弘
2	発育・発達とは？教育と発達との関係について	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
3	心理学的発達の基礎理論について	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
4	発育および発達心理学(胎児期～乳児期)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
5	発育および発達心理学(幼児期)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
6	発育および発達心理学(児童期)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
7	発育および発達心理学(青年期)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉	新井

			を自分の言葉で説明してみる。	
8	発達心理学(成人期・中年期・高齢期)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
9	教育心理学(知能と学力の仕組み)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
10	教育心理学(効果的学習 記憶 動機付け)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
11	教育心理学(条件付 古典的条件付 道具的条件付け)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
12	教育心理学(不適応行動および問題行動と学習指導)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
13	教育心理学(教育評価)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
14	発達障害および加齢による心身の変化の理解	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
15	教育現場の中の心理学の活用	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	新井
	試験とその解説			新井

事前課題：前の回の授業の最後に事前課題となる発問を行う。各自その問題について自分の意見を考えておくこと。

事後学習：学習内容を自分なりにまとめることで、授業内容における疑問点等を確認すること。

なお、キーワードとなる語は何かについては自分で考えること。

前回の疑問点について取り上げる機会を毎授業開始時に設定するので、疑問点は質問すること。

5. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況 (10%)、毎授業後のリアクションペーパーの内容(20%)、定期テストもしくは最終レポート(受験資格は授業の3分の2以上の出席をした者)の結果(70%)を評価の対象とする。期末試験については60%以上の得点(60点/100点)で評価の対象となる。評価のルーブリックについては初回の授業で提示する。定期テストでは全体的なキーワードの理解に加えの教育現場での知識の活用について問う。テストの範囲、方法については事前に授業内で説明を行う。

6. テキスト・参考文献

「基本から学ぶ 発達と教育の心理学」 藤田圭一編著 福村出版 2025

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスや教科書をもとに今回の講義内容を理解しようとの思いを抱いて講義に臨んで欲しい。各講義における受講準備として、予習を、最低90分程度行って欲しい。各講義の復習を必要に応じて行って欲しい。この復習に最低90分程度は時間をかけて欲しい。

8. 受講上の留意事項

授業の全回数の中の3分の1以上欠席した場合は定期テストの受験資格を失う。

遅刻、途中退席、授業中の私語、授業中に授業に関連する作業以外の行動は、参加態度として評価対象とする場合が

ある。

9. 課題に対するフィードバックの方法

上記の各回における講義のまとめ時とその次の回における導入の時間に、学習してきた基礎的かつ基本的な知見の理解度をチェックする。定期試験の終了時に試験の解答を説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

養護教諭第一種免許状取得のための科目である。

教職の必修科目であり、修得できない場合は免許状取得不可となる。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。